

## 教育目標

知識を求め 情操を豊かにし 進んで実践する生徒

### 【校長より】

「知識」とは、物事や技術等についていろいろと知っていることであり、その「知識」を求めていく、いわゆる汎用能力的な資質や能力と考えています。

「情操」とは、心の活動によっておこる感情で、知的、美的、道徳的などの崇高的なものと考え、精神的な豊かさを育てていくこととなります。

「実践」とは、実際に行う実行力のことです。それを意欲的に行うことが「進んで実践する」となります。

当校では、「生徒が知識を身に付ける場合に、単に暗記して覚えるだけではなく、課題を探究する過程を大事にし、生徒一人一人の資質や能力を高める能力を身に付けさせ、物事に対して自ら考え、判断し、自分の言葉で相手に伝え、より良く自身の人生を生きようとする」ことを考えています。

今年度当校では、「他者との関わりや体験を通じて、生徒自身の価値判断を培い、周囲や相手に自身の考えを伝えることや周囲の人との関係を構築し、他者への思いやりや配慮する心を育て、共に学んだことを活用し、自ら新しいことを発想したり、挑戦したりする力」を育もうとしています。

当校の生徒は、「あいさつを進んで行う」「時間を守る」「身だしなみをしっかりとする」「言葉遣いを丁寧にする」さらに、「掃除を隅々まで行う」と生徒自身が掲げ、生徒会を中心に取り組んでいます。各言葉の最初の頭文字をとって「あじみこそ」活動として、毎月の生徒朝会では、生徒会本部を中心に飼育専門委員会が評価し、一人一人の生徒活動をより良いものにしていっています。

生徒は、明るく素直な性格で、快活で前向きな生徒が多いと感じています。学習への取り組みもよく、意欲的な生徒が多いです。やや学習に足して苦手な生徒もいますが、学習への興味や関心を一層高め、授業では「かかわり合い学びを深める」取り組みを行っています。また、他を思いやる心優しい生徒が多く、相手の気持ちを理解できる支持的風土を醸成した学級を形成しています。中には、やや人間関係を上手く結ぶことが出来ずに心を痛める生徒や、他者を思いやることができず、自己中心的になってしまう生徒もいます。このようなことから、他者を思いやる気配りや心配りを実践できる生徒を育成したいと考えています。自己の探究心や学力を着実に高めると同時に、級友と意見を交換し、一層深まりのある学びや学び方を身に付け、仲間と協力して物事を解決できる人間の形成を目指していきたいと考えております。

当校の教育目標として、生徒の実態を踏まえ、先達の方から受け継いだ「知識を求め 情操を豊かにし 進んで実践する生徒」という生徒の育成を全教職員が **ONE TEAM** となって取り組んでいきます。

新潟市立山の下中学校  
校長 高野 浩憲

\*\*\*\*\*

新潟市立山の下中学校のホームページをご覧いただき、ありがとうございます。これまでホームページの内容が少なく申し訳ありませんでした。校内で検討しながら、また、個人情報に関して配慮しながらお伝えできるようにしていきたいと考えております。今後とも当校の教育活動につきまして、ご理解とご協力を頂きますようお願いいたします。

\*\*\*\*\*